

四 国 巡 検 会 報 告

九州女学院高 元島 威
熊大教 森 林

8月4日から、8月9日まで5泊6日の夏期地学巡検会が行われた。人員は17名、第一高校の徳山先生の指導で、無事に予定の日程を終えた。

8月4日、熊本発4時半ごろの急行火山号で別府へ、別府から夜行船で高松へむかった。

8月5日朝、船中より讃岐富士をながめ、瀬戸内海の風景に見とれているうちに、高松についた。高松から最初の巡検地である屋島の雄大なメサを横たえている姿が見られた。

屋島は花崗岩を基盤に下層より凝灰石、含輝石讃岐岩質安山岩がのりメサを型づくっている。屋島ドライブウエーのトンネルを出た所で凝灰石と讃岐石の不整合が見られた。讃岐石を採集し、土産屋で美しい音の出る讃岐石が売つてあつた。異つた音階を出し、あたかも、木琴ではなかつた石琴の様であつた。高松より徳島経由し穴吹より土柱にむかった。土柱は土の柱で頂点に石をのせているが、主にレキ層よりなつていて、山麓の堆積物が雨食によつて形成されたものようであつた。天然記念物になつているが、雨が降ることこわれていくそうである。阿波池田で1泊。8月6日、大歩包で三波川結晶片岩類を採集した。緑色片岩、レキ質片岩、石墨片岩などがあつた。走向はほぼ東西で大きく複背斜し

ていた。そのことは、池田から高知へ行く列車中より十分に観察できた。このあたりは結晶片岩類よりなつているので日本でも有数の地すべり地帯で、大雨が降ると鉄道は不通になりやすいので、鉄道の変路が行われ、長いトンネルが、いたるところにあつた。土佐山田より竜河洞に行つた。竜河洞は鳥巢石灰岩よりなつているようで、古生代の石灰岩ではないとのことであつた。秋芳洞にくらべ小さいが、変化に富んでいて、石器時代の人間の住居になつていたようであつた。

8月7日、早朝より佐川(高知市西方約25 Km)地方へ向う。佐川盆地の地質は複雑で、古生界の間に中生界(三疊系・ジュラ系・白亜系)が分布する。古生界は中生界の各層にはげしく衝上し、中生界とは断層で接している。この衝上のはげしさを物語るものとして、中生層の上に乗る巨大なチャートの岩塊は「根なし岩塊」と呼ばれ、かつてのはげしい衝上運動で、秩父古生層が中生層の上に、ほとんど水平に移動し、大部分の古生層は浸食され、抵抗の強いチャートの岩塊だけが取り残されたものだと考えられている。この青去のものは、田んぼの中に孤立しており、そこには神社が祭られ、我々一行にとつてよき休憩の場

となつた。

一方、化石も各時代のものが多数報告されている。我々は三疊系、蔵法院統から産出する *Daonella* を採集した。この地域の三疊系は、古い方から蔵法院統、河内ヶ谷統がありその他に斗賀野層がある。化石の採集地点は佐川駅東方約 2 Km の蔵法院の谷である。産出する *Daonella* は比較的小型で破片になつたものが多かつたが、一同熱心に石を割り、それぞれ目的を達したようであつた。他の化石産地では、*Oxytoma*, *Mytilus*, *Monotis* 等産するそうであるが、これらの化石は、熊本県内の三疊系からも産出する。

次の見学目的の上部ジュラ系、鳥ノ巢層群はこの盆地では、ほぼ東西に伸びる三つのベルトがあり、一番南の斗賀野帯が最もよく発達し、鳥ノ巢の石灰岩もこの帯のものである。この最初の見学地は、佐川町の北方の介石山付近である（高知発越知行バス下山下車、北方へ約 500 m）北帯のこの地層は下限は断層で不明であるが、下部にチャート礫を含むレキ岩あるいは礫質砂岩、次に石灰岩レンズをはさむ頁岩、さらにその上位にアルコーズ砂岩があり、白亜系、領石統に漸移する。この岩相の変化は、山道を登りながらほぼ観察できたが、一般に露出が悪く多少不満足な感を

残しつつ下山した。次に佐川駅南東約 4 Km の楠谷で南帯の鳥ノ巢石灰岩中の化石を採集した。石灰藻と思われるかなりきれいな標本も得られ、一同満足気であつた。さらに一同の希望で鳥ノ巢層群の命名地・鳥ノ巢の部落を見ようと約 6 Km の道を足を運び、それぞれの面持で目的を達し高知の宿への帰路についた。

8月8日、高知発松山行バスで愛媛県砥部町に向う。ここでは中央構造線を見学。砥部町長仙寺の川底の露頭の近くには、説明板ももうけられ、又途中田んぼの中の小道までコンクリートで舗装されているのに感心した。ここでは南側の結晶片岩を不整合におおう久万層群（中部中新世～下部鮮新世）の礫岩に北方の白亜系和泉層群が衝上している。断層面近くの和泉層群はよれよれになり、又礫岩中の礫が断層面を含む面によって切られているのが観察された。各自思い思いに写真に収めこの見学を終つた。次に松山に向い、道後公園及びその北東 500 m の地点で花崗岩を不整合におうつている所を観察し、松山城に向つた。

道後温泉は日本最古の温泉で、花崗岩の節理に沿つて出るもので、単純～弱アルカリ泉であることであつた。

最後に終始案内及び世話に色々と御苦勞下さつた徳山先生に心から感謝致します。